

第 1 回推進会議の提言及び深掘りのまとめ

資料 1

2060 年の南魚沼市の人口はこのまま何もしないと 37,000 人になると推計される⇒人口は減るが、年少人口、生産年齢人口、老年人口のバランスをとり、人口減少と少子高齢化に歯止めをかけたい⇒総合戦略を策定⇒施策の展開⇒

(人口ビジョン) 2060 年に 43,000 人を維持

【今日の推進会議の進め方】

○南魚沼市版 CCRC 構想は個別の推進協議会において協議を進めている。
○すでに予算付けがされて実施している事業（子ども・妊産婦医療費助成など若い世代が暮らしやすい環境づくり）がある。
⇒今日は、それ以外の部分（例：産業、雇用等）で、重点となる施策について提案してほしい。

市の財源にも限りがあるため、国の地方創生メニューを活用

●人口が増えるという事は「まちの魅力」、「まちづくり」の結果。
●市民アンケートの雇用や高齢者福祉の要望が高いのはどの自治体も同じ。むしろその下の省エネ・新エネ、観光、農業、学校教育、住環境、商工業等を掘り下げて考えるべき。
●人口減少に困っていない自治体のデータとの比較により、出て行った人がなぜ戻ってこないのかを研究し、まちの魅力を上げ U ターンと I ターンが増えるまちとするべき。

●大学生などで市外に出ていった子ども達に対して、地元に戻ってこなくていいと思っている親が多い。原因は良い就職口がないこと等。
●東京などのいわゆる「バツイチ」の人が、南魚沼で出会いがあって結婚して、もう 1 人産んでもらうようなアイデアがあってもいいのでは。
●市外者からは学力の低い地域、就職先のない地域とみられているのではないか。

●地方版の総合戦略には他地域から人を奪ってくる側面がある。他との競合に対し、いかに地域の魅力づくりをして人を増やすか。南魚沼市の魅力を再確認して発信していくことがポイント。
●近隣自治体と連携して総合戦略を進めていくことも重要。
●仕事ばかりではなく、賃金やワーク・ライフ・バランス、休暇や育児休業が取れるといった仕組みづくりが重要。

●南魚沼市から新潟市等への通勤スタイルも働き方の一つの提案。雇用・産業など、すべて南魚沼市の中で完結しなくてもよい。暮らしが成り立てばいいし、人が集まることで新しいマーケットができ、事業が増えることが重要。

●南魚沼市民が共感できる大胆な戦略が必要。
●子どもは社会全体で育てていくという認識に立たないと増えない。
●商工業者の後継者問題。商工業者が年々減少し日本の活力を奪っている。利益を生み出せる企業の創出、商売をしたいという人と市内の後継者難の企業のマッチング。（お試し就業）

●既存にとらわれない新しい政策を打ち出さなければ 2060 年 43,000 人維持は難しい。
●南魚沼が消滅可能性都市に含まれていない理由はどこにあるのか共有すべき。
●年少人口を増やしていかない限り、まちを維持していくことは不可能。そのために初等教育、中等教育に重点政策を置くべき。この地で育った子どもが将来このまちを担っていくという循環を作る。

●長岡市にヨネックス、山口県にユニクロ、南魚沼市に〇〇〇というような、破格の待遇での企業誘致があってもいい。
●南魚沼市はこの地域の官公庁の中心地と位置づけられる。もっと企業誘致などで PR すべき。経済の中心地ではないかもしれないが、行政の中心地になり得る。そこに働く人がいれば消費がある。
●女性の M 字型就業によるキャリアの喪失問題。女性の再就職とキャリアが継続する仕組みづくり。

●産業集積が少ない、ニッチトップ、中核的な企業が限られているが、逆にきらりと光る技術や商品を持った企業がある。どんな形で産業を振興していくのか検討が必要。
●どの分野の産業でも生産性を上げるのが重要。市内の一人当たりの総生産を上げるために、どの業種を伸ばしていけばいいのかデータを見ながら議論すべき。

●地元の誇りの部分があり意識されていないのではない。知らないだけで、周知していけば、地元に対する気持ち（愛着心）が変わる。
●評価されるべきものを、世界に向けたブランディングする必要性。
●多くの子どもや人々が、地域の宝や資源を学んでいく仕組みづくり。

（自身の発言の考察）
★イベント等の取材先で友人や知り合いに会ったことがない。
なぜ、参加しないのか周囲をリサーチして深掘りしてみる。
★素晴らしい文化と感じているもの⇒越後上布雪さらし、鳥追い、わら細工職人

●生活する上での自然（環境）を好きになる方法を考えるべき。
●地域に感性を上げる文化的な施設が少ない。魅力を感じるものがあれば、自然にこの地に戻ってくる。外から呼んでくることも大事だが、一度（進学等で）出てもいいから、戻ってくることで人口が維持できる。

●医療、大学、CCRC と関連して企業誘致の面から浦佐駅の有効活用（シェアオフィス等）を検討すべき。
●グルメライド、グルメマラソン等地域資源の PR、移住の促進に有効。人の流れを生む 1 万人規模のイベントの育成と継続。
●第 3 子を産んだら 100 万円（県 200 万円）併せて 300 万円出すといった取組は人の注目を集め効果があるのではないか。財源は独身の若い人に税金を上乗せする。

★若年層にとって「南魚沼市が魅力的な街」に見えるためにはなにをするべきなのか。
メニューをたくさん用意することは財政的にも負担⇒優先順位として、「南魚沼市が魅力的な街」に見せるためには、初期段階においては、I ターン者、特に ICT が生活の一部となった人々を呼び寄せることが重要。I ターン者、特に「クリエイティブクラス」を呼び込むことにより新しい風が入り、街が活性化⇒I ターン者・U ターン者ともに街が魅力的に見える⇒最終的に U ターン者増につながる
★「クリエイティブクラス」を呼び込むポイント：「人」、「場」、「食」＝コワーキングスペース、シェアオフィス、滞在型宿泊施設、食文化の高い街（飲食店のレベルが高い街）
若年層の I ターンの促進⇒環境整備+まちづくり会社の設立（プランニング、スピード感が行政では不足）が必要。
（例）兵庫県篠山市「一般社団法人ノオト」、岩手県紫波町「オガール紫波株式会社」（不動産開発的要素を強く持つタイプ）と徳島県神山町「NPO 法人グリーンバレー」（「場の提供」を目指すタイプ）の中間タイプが理想型。

★輸出促進のための海外でのプロモーション活動の強化（海外マーケット調査、展示会・商談会出展、海外プロモーション活動費に対する補助制度の創設）
★観光振興策の強化（外国人旅行者の取組強化、公共交通網再構築、Wi-Fi 環境整備）
★産学官コーディネーターによる企業と大学のマッチング支援（中小企業等と大学等研究機関のマッチングにより可能性試験や研究委託、国等の研究開発プロジェクトへの提案など、産学官連携による新技術の開発、新産業の創出）
★産業界と連携したキャリア教育（長期インターンシップ制度の創設）
★結婚支援（近隣の企業と連携した婚活事業の実施）
★子育て支援（保育料等軽減、子育て支援協賛店舗制度創設、子育て世帯向け優良賃貸住宅供給）

★若い人たちの定着・移住及び少子化対策
①子供を社会全体で育てる(対象は大学生まで)
②市民・高齢者・大学等との連携
⇒放課後等、市民・高齢者等ボランティアが学びを提供（地域の文化・歴史等の学びも提供）、ポイント制度を導入によりボランティアに還元するシステムを構築。
⇒大学の定期的な高校生向けオープン講座の開催（学力向上）
⇒国際大学の各国学生と子供達がコミュニケーションできる環境整備（国際感覚醸成）
★産業政策
①将来の事業所数の確保
⇒創業(起業)支援による新規事業所の創出
⇒起業家を育成するシステム（起業家育成スクール）を構築
後継者難の企業と起業希望者のマッチング
★融資制度等の創設
（設備投資）
①設備資金融資（マイナス金利）
⇒3,000 千円以上 10,000 千円以下を対象とするマイナス金利の設備資金創設（創業支援）
①新潟県中小企業創業支援資金利用者への保証料補填
②事業用動産の固定資産税を 3 年間限度に 50 万上限で免除
③南魚沼市未来の起業家応援事業補助金の創設
⇒市内で新ビジネス需要を創出し、将来の雇用の増加や事業成長が見込める起業家に最大 1,000 万を補助する制度の創設

★都市のコンパクト化、周辺ネットワーク形成（湯沢－六日町－浦佐、湯沢－六日町－十日町の電車の深夜運行(代替バスの運行)、市民バス利便性向上、ララ（図書館）の駅ビルとしての機能強化）
★中心市街地の活性化（ゾーニングによるコンパクトシティづくり、人口集中地区の設定、空き店舗対策、六日町駅前再開発、サービス付き高齢者向け住宅）